



# 新歯科進化論

< 2 >

赤司 征大



アメリカの医療×テクノロジー分野への投資額は、2013年の2900億円が、14年には6500億円と、年々増加しています。

この分野の教育は起業家精神にあふれるUCLAのビジネススクールでも活発化しており、産学問わず新規医療ビジネスを創出しようという機運にあ

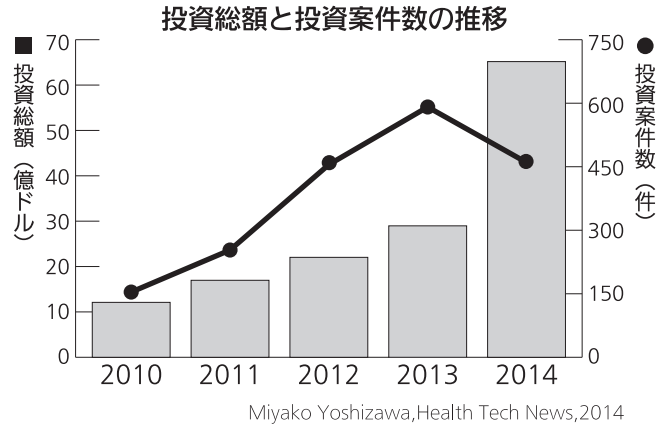
ふれていました。程度の差こそあれ日本も同じ傾向にあり、医療／ヘルスケアは国内のベンチャー投資をけん引しています。近年では遺伝子解析や遠隔医療に特化したビジネスプランのコンペティションなどが行われ、医師兼起業家も台頭してきています。しかし、歯科医療からそのような場

向けるべきです。日本政府はヘルスケアを国家戦略の重点課題と位置付け、2015年度からデータヘルス計画を実行に移しています。



## 産業への戦略構築 が歯科医療を救う

を産業として蓄積してこなかったために、この流れに乗り遅れました。ヘルスケア関連のさまざまなカンファレンスに歯科医療から代表者が出ていない現実、国家レベルでのヘルスケアの枠組みから歯科医療が外されはじめているのではないかと焦燥感に駆られます。



に出てくるベンチャー企業は皆無といえます。光学印象や3Dプリンターなどのテクノロジーに頼るさまざまな新サービスが歯科医療でも生まれており、土壌は十分にあります。医療プロフェッショナル自身の関連ビジネス進出は、業界の活性化、刷新化につながります。一人でも多くの歯科医療従事者が、今の時代だから得られる可能性に目を

データヘルスとは、保険者が主体となつて特定健診やレセプトなどの医療データを解析し、高血圧や糖尿病などの予備軍を対象とした保健事業を通じて、人々の健康を高めていく取り組みで、個々人の取り組みに合わせた保険料への支援等のガイドライン策定にまで発展を考えています。しかし歯科は、医科のように客観的な定量データ

生活習慣病としての側面の強い歯科疾患は、国民の健康寿命の増進に深く関わっています。ヘルスケアの旗手になり得るのに産業として環境の変化に対応できないという失態は、10年後、20年後の日本社会に大きな損失を生み出していきます。産業としての歯科医療をどう構築するのか。歯科医療従事者は岐路に立っています。

(歯科医師、中小企業診断士、MBA)